

# 七条中学校だより5月5号

京都市立七条中学校

令和8年5月12日

発行：校長 林 秀雄

## 心を揃えるということ

生徒の皆さんに、どうしても紹介したい詩があります。長野県にある円福寺というお寺の住職、藤本幸邦（ふじもとこうほう）さんがつくられた詩です。

私は毎日、朝と完全下校後に校舎内を点検しています。その時、教室や廊下と同じように、トイレの様子も見ています。特に気になるのが、トイレのスリッパが揃っているかどうかです。スリッパがきれいに揃っていると、なぜかこちらの気持ちも落ち着きます。反対に、ひどく乱れているのを見ると、自分の心まで少し乱れてしまうように感じます。そんな時は、次に使う人のために、黙ってスリッパを揃えておきます。すると、不思議なことに、自分の心も整うのを感じます。

そんな私の思いと重なる詩が、次の詩です。

はきものをそろえると 心もそろう  
心がそろくと はきものもそろう  
ぬぐとときに そろえておくと  
はくとときに 心がみだれない  
だれかが みだしておいたら  
だまって そろえておいてあげよう  
そうすれば きっと  
世界中の 人の心も そろうでしょう



この詩は、はき物をそろえることが、自分の心を正しくすることにつながっているということを教えてくれる、すてきな詩です。特に私が心に残っているのは、「だれかが みだしておいたらだまって そろえておいてあげよう」という一節です。後から使う人のことを思いやる気づかい、そして「まずは自分からやろう」とする心がまえが感じられ、とてもさわやかな気持ちになります。

最近、校内を見て回っていると、トイレのスリッパが揃えてあることが多くなってきたように感じます。使った後に揃えてくれている人、乱れているのに気づいて直してくれている人が増えているのではないのでしょうか。そう思うと、とてもうれしくなります。

これはスリッパだけの話ではありません。教室の机や椅子の並び、提出物や回収物の渡し方など、学校生活の中には「次に使う人」「次に受け取る人」が必ずいます。その人の気持ちが少しでも良くなるように心を配ることができる人になってほしいと願っています。

そしてそれは、自分自身の心を揃える・整えることでもあります。一つ一つの小さな行動の積み重ねが、豊かな心を育てていきます。七条中学校が、はき物を揃えるように、心も揃えられる学校であり続けることを願っています。これからも、みんなで豊かな心を育てていきましょう。

## 何気ない一言の力

今朝、いつものように登校指導に立っていると、一人の生徒が私のそばに歩み寄ってきました。「林先生ですよね?」「はい、林です。」するとその生徒は、はっきりとこう言ってくれました。「学校だよりを書いてくれてありがとうございます。」「おお、こちらこそありがとうございます。」ほんの数秒のやり取りでしたが、私の心は一気に温かくなりました。学校だよりを「読んでくれている」こと、そして「書いている人」にまで目を向け、感謝の言葉を伝えてくれたことが、何より嬉しかったのです。

話しかけてくれた生徒は、おそらく1年生（12～13歳）の生徒でしょうか。私はもうすぐ還暦（かんれき；60歳）を迎えます。まさかその年齢差を越えて、こんなにも素直で真っ直ぐな「ありがとう」をもらえるとは、正直、想像していませんでした。

学校だよりは、日々の学校の様子や、私なりの思いを言葉にして届けたいという気持ちで書いています。忙しい毎日の中で、目を通すのも大変だろうと思うこともあります。それでも、どこかで誰かが読んでくれている。その誰かが、今日のあの生徒のように、心に留めてくれていると思うと、「言葉を発信すること」の意味を改めて感じます。

人は、ときに「たった一言」で誰かを元気にし、支えることができます。今回、元気をもらったのは、間違いなく私の方でした。そして同時に、七条中学校の生徒の優しさ、感受性の豊かさを誇らしく思いました。これからも、生徒の皆さんが安心して言葉を交わせる学校、気持ちを伝え合える学校でありたいと思います。今朝の出来事を大切な宝物として、これからの教育活動に向き合っていきます。